



有形文化財（彫刻）

3 1. 木造男神像 1 軀

■指定年月日 平成5年3月18日（1993）

■像 高 74.0cm

■所在地 若山町出田 34-24

■所有者 白山神社

檜ひのきの一木を丸彫りして造った神像である。  
冠をかむり、袍（高貴の人が着た丸襟の上衣）を着け、両手を前に組んで坐る。手に持った笏しやくは亡失している。目をやや下に向け、鼻筋は通り、口をきりっとひきしめ、あごにはひげを彫り出している。雄々しい威厳のある容貌おほぼうで、全体として朽損が少なく、まことに端正で重厚な神像である。様式などから平安期の作とされ、彫刻的にもすぐれた古神像である。

この像は若山町出田の旧家有政家に伝来し、尊崇されてきたものであるが、後年同家から白山神社に奉納されたものである。

平安期の古神像は、珠洲市内はもとより能登で

も希少であり、この地方の神道文化史や彫刻史の上で重要な文化財である。

因みに有政家には、黒峰城主阿部判官との縁組伝承がある。中世末期、飯田郷内における有力な長百姓であったので、珠洲地方へ真宗の教線拡大に奔走していた金沢市の専光寺慶心の書状（年不詳、正福寺文書）の宛名に「卯月六日、飯田郷有正・則真・末次・其外御門徒中」と、その筆頭に「有正」（有政）がある。